

実践8 外国語「英語コミュニケーションⅠ」 1 学年

科目の目標(3)	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
----------	---

単元名 Lesson 6 A Wheelchair Traveler

単元の目標(3)	バリアフリーに関して読んだり聞いたりしたことについて、誰もが暮らしやすい社会と関連付けながら、自分の考えや意見を聞き手に理解しやすいように伝えようとする態度を養う。
----------	--

単元の評価規準	観点	生徒の姿	主な評価方法・材料
	【知】	【知識】現在分詞や過去分詞、分詞構文、It …that 構文の意味や用法、考えを述べるために必要となる語彙や表現を理解している。 【技能】本単元で学習した表現を基に、ノーマライゼーションについての自身の考えを伝える技能を身に付けている。	「未来課題」・単元テスト
	【思】	バリアフリーに関して読んだり聞いたりしたことについて、自分事として考え、誰もが暮らしやすい社会と関連付けながら自分の考えや意見を理由とともに話して伝えている。	「未来課題」・振り返り
	【態】	バリアフリーに関して読んだり聞いたりしたことについて、自分事として考え、誰もが暮らしやすい社会と連付けながら、自分の考えや意見を理由とともに話して伝えようとしている。	「未来課題」・振り返り

「学びに向かう力」育成に向けた本単元における「未来課題」


「未来課題」	各国(それぞれで選んだ国)の日本大使館において、沖縄観光大使として沖縄のバリアフリー観光ガイド制作会見を開こう。
--------	--

本質的な問い	誰もが楽しく旅をし、豊かに過ごすことができるノーマライゼーション社会を創るために大切なことは何か、自分事として考える。
--------	---

6要素	①目的	障害の有無に関係なく、誰もが豊かに人生を送るには何が必要なのか。
	②役割	沖縄観光大使
	③相手	各国の大使(+その国の国民)
	④状況	個人による観光ガイド制作発表会見
	⑤作品	発表原稿及びスライド等
	⑥評価	【思】【態】評価基準(ルーブリック)で評価(後掲)



外国語 英語コミュニケーション 単元名: Lesson 6 A Wheelchair Traveler		
単元を貫く問い ノーマライゼーション社会を創るために大切なことは何か。		
「未来課題」 各国の日本大使館での世界観光サミットにおいて、沖縄観光大使として沖縄のバリアフリー観光ガイド制作会見を開こう		
6要素	上記の場合	キャリア力
① 目的	パフォーマンスの目的は？ 障害の有無に関係なく、誰もが豊かに人生を送るには何が必要か、自分事として考えて発表することができる。	みとおす力
② 役割	シミュレーションする役割は？ 沖縄観光大使	みとおす力 ふり返る力
③ 相手	誰が相手か？ 各国の大使(+その国の国民)	かかわる力
④ 状況	想定されている状況は？ 個人による観光ガイド制作発表会見	かかわる力 やりぬく力
⑤ 作品	生み出すべき作品は？ 発表原稿	やりぬく力
⑥ 観点	評価の観点(規準)は？ 評価基準(ルーブリック)に記載	みとおす力 ふり返る力

【指導と評価の計画】

時間	☆本時のねらい ○学習活動 [評価方法] ○指導に生かす評価 ○記録に残す評価	評価の観点		
		知	思	態
1	☆単元目標を理解する。 ☆未来課題について理解する。 ☆バリアフリーについて考え、関連表現を理解する。 ○「フوترランゲージ活動」①:「ノーマライゼーション社会」「大使館」のイメージ、役割、日本と各国のつながりを理解しながら世界から沖縄へ焦点を変え、自分事として捉える。 ○Discussion in groups:自分たちが今生きている環境や社会について話し合い、本単元の「未来課題」について共通理解を図る。 ○Section1(p.86-87)新出語彙の理解と習得、チャンク/パラグラフ理解(ペア/全体) ○Section1 Summary	一斉に記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を見届けて指導に生かすことは毎時間行う。		
2	☆自分なりの「誰もが暮らしやすい社会」をイメージする。 ☆新出文法(現在分詞形容詞的用法)を理解する。 ○Warm-up Listening ○Reading in pairs / Q&A(p.86)(ペア→全体)○Retelling Activity in pairs ○Writing and Interacting in pairs(p.87):現在分詞を活用しながら、自分の考えを書く。 			
3	☆イタリアの人々の行動について理解する。☆新出文法(過去分詞形容詞的用法)を理解する。 ○フوترランゲージ活動②:世界遺産も多くあるイタリア、「観光における良い面」vs.「不便さ」に気付き、沖縄にも関連している面を理解する。(写真を見て気付いたことや感想を、全体で確認/グループで、沖縄との類似点や相違点について意見交換) ○Section2 (p.88-89) 新出語彙の理解と習得、チャンク/パラグラフ理解(ペア→全体) ○Section2 Summary			

4 本時	<p>☆多様な人々と共存する重要性について考える。 ☆新出文法(過去分詞形容詞的用法)を理解表現する。 ○Warm-up Listening ○Reading in pairs / Q&A(p.88)(ペア→全体) ○Retelling Activity in pairs ○Writing and Interacting in pairs(p.89):過去分詞を活用しながら、自分の考えを書く。 「自分自身、又は家族の誰かがこれまでに誰かを助けたこと(経験)」をペアで伝え合う。</p>		○	○	○
5	<p>☆異なる国の人々の行動について理解を深める。 ☆分詞構文の意味や用法を理解する。 ○フォトランゲージ活動③:ギリシャの人々の行動から見える、沖縄の人々との「共通点」を考える。 「住みやすさ」vs.「住みにくさ」、「自分ならどう対応するか」の意見交換 ○Section3(p.90-91) 新出語彙の理解と習得、チャンク/パラグラフ理解(ペア→全体) ○Section3 Summary</p>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>一斉に記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を見届けて指導に生かすことは毎時間行う。</p> </div>		
6	<p>☆手を差し伸べる側と求める側の気持ちや行動について考える。 ☆分詞構文の意味や用法を理解し、表現する。 ○Warm-up Listening ○Reading in pairs / Q&A(p.90)(ペア→全体) ○Retelling Activity in pairs ○Writing and Interacting in pairs(p.91):分詞構文を活用しながら、自分の考えを書く:「自分自身、又は家族の誰かがこれまでに誰かに助けられたこと(経験)」をペアで伝え合う。</p>				
7	<p>☆様々な国を比較し、暮らしやすい環境や社会について自分事として考える。 ☆It is ...that 構文の意味と用法を理解する。 ○ランキング活動 in group:ハワイ、イタリア、ギリシャ、それぞれの国の人々の行動を基に、どの国が最も住みやすいのか、それが「観光」とどう関連しているのかを考え、議論する。沖縄の人々との「共通点」を考え、沖縄にも関連するであろう面を意識させる。また未来課題に向けた情報の整理を行う。 ○Section4(p.92-93) 新出語彙の理解と習得、チャンク/パラグラフ理解(ペア→全体) ○Section4 Summary</p>				
8	<p>☆全ての人に対応する「ノーマライゼーション」の持つ意味を考え理解する。 ☆It is ...that 構文の意味と用法を理解表現する。 ○Warm-up Listening ○Reading in pairs / Q&A(p.92)(ペア→全体) ○Retelling Activity in pairs ○Writing and Interacting in pairs(p.93):It is ... that 構文を活用しながら、世界の人々の行動と自分の行動を比較しながら、これからの自分の行動や役割について英文を書き、ペアで意見交換する。</p>				
9	<p>☆一人ひとりが暮らしやすい環境や社会づくりについて、沖縄県 ver.を考える。 ☆未来課題に向けて企画書作成、実践準備 ○Small Talk in different pairs ○Writing Documents and Making Materials:一人一台端末によるスライド制作及び原稿作成(単元を貫く問い、未来課題の目的や役割等の設定内容を再確認する。)</p>				
10	<p>☆「未来課題」話すこと(発表):情報を整理し自分の考えを具体的に伝え、視覚教材を活用しながら聞き手が理解しやすいよう表現する。 ○ALT/教師のもとへ行き、テストを受ける。 ○残りの生徒はまとめ問題等を行う。○振り返りシートに記入</p>		◎	◎	◎

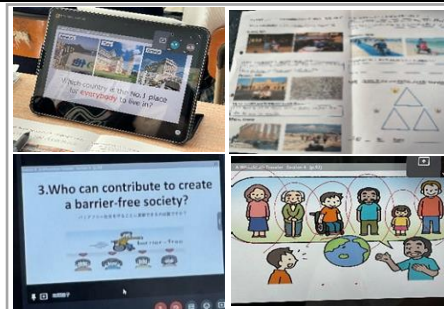
【授業の実際】(4/10 時間)

	学習活動 ・ 指導上の留意点	評価の観点			
		知	思	態	
導入 (5分)	<p>【学習活動】Small Talk / Listening ○「1 min. Talk」 in pairs:If I had a super power, I would ... ○Listening as review 【指導上の留意点】ペア活動(ペアの欠席)支援</p>		○	○	
展開 (40分)	<p>【学習活動1】○Reading in pairs、Q&A(p.88)(ペア→全体) 全体で最終確認 【学習活動2】○Retelling Activity in pairs: Key words を確認しながら、各段落リテリングを行う。 【学習活動3】○Writing and Interacting in pairs ○p.89 check 問題を確認:過去分詞を活用しながら、自分の考えを書く:「自分自身、又は家族の誰かがこれまでに誰かを助けたこと(経験)」をペアで伝え合う。【指導上の留意点】聞き手が理解しやすいよう、シンプルで伝わりやすい表現を意識させる。</p>		○	○	○
まとめ (5分)	<p>【学習活動】○活動の自己評価及び振り返り 【指導上の留意点】「共存」に対する意識を、「世界規模」及び「学校」、「学校内」にも目を向けられるよう声かけを工夫する。</p>		振り返りシート		

【「未来課題」の実際】

未来課題に向けて

「バリアフリー」「ノーマライゼーション」をキーワードに、「画面の向こう側だけの出来事」という固定観念を覆し、自分や周りに関連付けて助け合うことの大切さを考え発話していく授業計画とした。フォトランゲージ活動やランキング活動、「共存」「自分と他者」「手を差し伸べる側に必要なことは何か」等、ペア・グループによるやり取りを行い、教科書を飛び出した広い視野のテーマから沖縄・自分・周りの環境へと考えていくことで、様々な国の良さや問題点の発見、世界と沖縄の共通点・相違点等に付き、自分や周りに関連付けながら思考を深めていった。



“The differences between Barrier free and Normalization”の質問に対し、「Normalization is easy to live for everyone. Barrier-Free is a society without barriers.」、「People with disabilities should not be treated differently because they are disabled.」、「Normalization, people can live equally.」（生徒の振り返りより：原文のまま）など、自分と異なる見方、感じ方に自分の意見を加え、情報を重ねながら各々が未来課題に向けて自分の考えを整理し、それを表現する活動を積み上げていった。インプットしたものをアウトプット活動に変換することで、習得した知識や情報のみならず、英語を介して自分を表現することができるというプロセスを体得させることができたと考える。

「未来課題」：沖縄観光大使として、各国日本大使館で沖縄のバリアフリー観光ガイド制作会見を開こう。

外国(それぞれで選んだ国)の日本大使館で、各国の大使を招いた世界の観光サミットが開催されます。世界有数の観光国としての日本・沖縄のよさ、誰もが楽しく旅をし、豊かに過ごすことができるノーマライゼーション社会の構想について、各国の大使に紹介するプレゼンテーションを行いましょう。

評価基準(ルーブリック)：領域「話す(発表)」

条件1: 単元で学習した語彙や表現を活用し、スライド等の視覚教材を使用しながら聞き手が理解しやすいよう、「興味・関心を引く沖縄」について話し伝えている。

条件2: 情報を整理し、観光ガイド提案を理由や根拠とともに具体的に述べている。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	語彙や表現の選択に間違いがなく、【条件1】を満たしている。	【条件2】を満たし、自分の考えを踏まえながら、より具体的に提案し、その理由を明確に述べている。	Bを満たした上で、聞き手に伝わるよう十分配慮しながら情報や自分の考えをより詳しく述べて伝えようとしている。
B	語彙や表現の選択に多少の誤りはあるが、【条件1】を満たしている。	多少の誤りがあるが、【条件2】を満たしている。	聞き手を意識しながら、声の大きさや表情、ジェスチャーを使って話そうとしている。
C	「B」を満たしていない。	「B」を満たしていない。	「B」を満たしていない。

生徒は各自タブレットを持参し教室前方スクリーンを使用しながら一人ずつ発表、教師はその場で評価する形態で実施。既習表現、キーワードを活用しながら自分の考えをまとめて整理し、自分や周りに関連付けながら表現しようとする態度を、「未来課題」作品(発表原稿及びスライド等)で評価を行った。語彙や表現の正しい選択、具体的理由や考えを明確に述べ、視覚教材を活用しながら相手に理解してもらえるよう表情やジェスチャー、声量や間の取り方などを自分なりに工夫し、聞き手を引き込むようなプレゼンテーションをA評価とした。(発表原稿は原文のまま：文法的な誤り等を含む)



評価	生徒の「未来課題」記述
AAA	[生徒 a] I introduce “Southeast Botanical Garden”. The reason why I chose this place is that you can interact with a lot of animals in nature. <u>It’s a place where you can eat lunch and dinner using vegetables. The roads in the park area are wide and there are toilets for the disabled, and wheelchairs are available. The Southeast Botanical Garden is a place where you can relax your mind and body with illuminations. It is barrier-free facilities so that anyone can enjoy it.</u>
BAA	[生徒 b] I introduce “Motobu Genki Village”. You can enjoy various programs there. For example, <u>there is a dolphin program where you can interact with dolphins. Marine program where you can fully enjoy Okinawan nature, and cultural experience program where you can experience Okinawan culture. Additionally, some dolphins programs include DAT (Dolphin Assisted Therapy), which uses animals called dolphins to provide therapy aimed at improving various symptoms. There are also disabled toilets available. However, in addition to making our facilities barrier-free, we also need to change the way we think.</u>



BBB [生徒 c] I introduce "Ryukyu Village". Because you can get in touch with Okinawan culture. For example, you can enjoy traditional Okinawan things such as Eisa and traditional dance. We also have wheelchairs for people with disabled and can borrow them for free. And there are also facilities such as parking lots and toilets for people with disabled. I thought about what I could do. I wanted to help if someone is in trouble and always try to be kind to them.



【実践の効果】

「内容を一つのまとまり」として、主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立て、学習したことの振り返りや自身の学びの変容を自覚できる場面を取り入れ、学びに向かう力の育成へ向けて「未来課題」を実施した。授業で学習したことやペア・グループでのインプット・アウトプット学習内容の定着度を「知識・技能」、自分の考えや情報を整理し、観光ガイド提案による表現を「思考・判断・表現」、作成した原稿を基に相手に理解してもらえるように工夫しながら伝えているかを「主体的に学習に取り組む態度」として全体の様子から見取っていく。

【「未来課題」における各評価】

「未来課題」における各評価の生徒の割合(右表)は、全員が B 以上の評価となった。「知識・技能」における8割以上の評価は、単なる暗記や学んだ語彙や表現の活用だけではなく、それを自分の考えを表出するのに十分に活用できる能力を十分に持ち合わせていると評価した結果である。

「未来課題」の結果(n=37)			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	13.5 %	48.6 %	48.6 %
B	86.5 %	51.4 %	51.4 %
C	0 %	0 %	0 %

また、外国語における観点別評価は、活動を通して自らの考えを膨らませ表現し、それをどのように他者へ伝えていくのかを「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」で見取っていくため、思考と表出の連動によって二つの観点が同一数値の結果となった。

言語活動は、単に数字や単語を伝えることだけではなく、伝える相手に「何を伝えるのか」、「理由や自らの考えを伝えること」であり、思考—情報蓄積—修正—表出(伝達)—再修正、を繰り返すことで言語を修得することにつながっていく。伝える喜びや英語の楽しさを知ること、より正確に、さらにより多くを発出しようとする資質・能力が生まれ、学びに向かう力を育むことが期待される。約半数近くの生徒が「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」で A 評価となったのは、前述の一連の活動によって、習得した知識に新たな考えやその理由・裏付けを追加して修正していくというプラスマイナス作業の活動を経て、聞き手の理解に配慮しながら主体的に表出することができた結果だと考える。対象クラス全員が「概ね満足できる」B 以上の結果となり、単元目標である「自分の考えや意見を聞き手に理解しやすいように伝えようとする態度を養う」ことに「未来課題」の実践が効果的であり、学びに向かう力の育成に有効であったと捉えることができる。

【事後アンケート】

次に、生徒への事後アンケート(下表)から考察する。

(n=37)

Q1. 単元目標を意識しながら授業を受けることができましたか？		肯定的回答 90.0% (記述回答は原文のまま)
[生徒 d]	これから先、いろんな人と関わっていく中で、たくさんの人との接し方を意識することができた。	
[生徒 e]	障害を持っていたらと、自分事として考えていた。この授業のおかげで諦めずに伝えることがわかった。	
Q2. 「未来課題」に設定された役割(観光大使)として、自分の考えや意見を発表することができましたか？		肯定的回答 75.7% (記述回答は原文のまま)
[生徒 f]	自分の意見を言う力がついたと思った。「どうすれば分かりやすく相手に伝わるか」を考えて取り組むことができた。	
[生徒 g]	自分の言葉で話すことができてよかった。ただの暗記テストではなくて、スピーチにすることが大切だと思った。	
Q3. 「未来課題」によって、社会との結びつきを自分事として捉えることができましたか？		肯定的回答 97.3% (原文のまま)
[生徒 h]	障害者の苦勞、嫌なことばかりではないことがわかったし、障害があるからできないことばかりではないことが分かった。	
[生徒 i]	英語を通して自分や社会の未来のことを考えることができた。	

各項目において肯定的回答が得られた。単元目標を意識し、「未来課題」に向けて対話活動による考えや意見をビルドアップさせ、社会を意識しながら自分事として捉えることができたと感じるのは、それぞれが主体的に取り組んだ結果であり、実際の発表においても目的や役割を理解して「伝える相手に何をどう伝えていくか」を自分なりに考えて発表に望んだ結果であると考え。「英語のスピーチ」が着地点ではなく、目的を持って対話活動を積み重ねることで自分の考えを広げ深めながら「未来課題」に挑むことが重要であり、単元開始時における教師と生徒の目標及び評価の共有、すなわち「指導と評価の一体化」による効果も相まって生徒は自信を持って自らを表現することができたと思える。

使用する語彙や文、対話活動の展開における支援を通して、教科書内容の線路上にある社会的象を自分や周りと結びつけて考え、情報を整理し、気持ちを伝える「未来課題」の実践は学びに向かう力を育むことに有効であると考え、今後も生徒が考える場面と教師が教える場面の組み立て方を工夫することで、一人ひとりが学ぶ喜びを味わい、さらに学ぼうとする力の育成が期待できると考える。